

# 1930年代の在米日本人による郷里送金： 横浜正金銀行ロサンゼルス分店の送金票の 分析から

佃 陽 子

カリフォルニア州サンフランシスコ日本町にある日米史料館（Japanese American History Archives）に所蔵されている岡コレクションには、日米開戦とともにFBIによって接収された横浜正金銀行アメリカ店舗の貴重な史料が含まれている<sup>1</sup>。その店舗の一つであるロサンゼルス（羅府）分店は、1913年の開店から1941年12月の真珠湾奇襲で閉鎖されるまで、ロサンゼルスのダウントウンに位置する日系コミュニティ、リトル東京の中心部にあった<sup>2</sup>。アメリカ各地の日系コミュニティで発行されていた邦字新聞にしばしば掲載された広告（図1）にもあるように、当時アメリカにあった正金銀行は、日本の外国為替銀行として米ドルおよび日本円による預金、そして日本への送金を行っていた。本稿では岡コレクションの史料の一つである、横浜正金銀行ロサンゼルス分店の「郷里送金」の伝票を分析し、その史料の価値の一端を明らかにする。本コレクションの史料分析とデジタル・アーカイブ化のプロジェクトは2022年に本格的に開始されたばかりで、現在もまだ資料整理の途中だが、本稿はその初期段階における研究報告である。送金者や受取人として記載されている個人や団体の特定につ



図1 横浜正金銀行ロサンゼルス分店の新聞広告

出典：『加州毎日』1938年8月7日、Hojishinbun Digital Collection, Hoover Archives（以下HSDC）

いては、スタンフォード大学フーヴァーアーカイブスの邦字新聞デジタル・コレクションを利用した<sup>3</sup>。

## 1. 1930年代における郷里送金の歴史的背景

岡コレクションには、1938年7月と8月および1939年9月の横浜正金銀行ロサンゼルス分店の「郷里送金申込書」の伝票の原本が所蔵されている。たった数か月分の送金票ではあるものの、合計2,200枚以上におよぶ手書きの伝票は当時の在米日本人移民と日本各地の多岐に渡るコネクションをあざやかに浮かび上がらせてくれる。送金票には、いつ、どのような人々が、日本のどの地域に、どのくらいの金額を、どのような目的で送ったのかというデータが含まれている。こうしたマイクロデータを読み解くことによって、これまであまり研究されていなかった1930年代後半の日米開戦前夜における、在米日本人移民のトランスローカルな経済的ネットワークだけでなく、在米日本人コミュニティと日本との社会的、政治的、文化的な関係性を明らかにすることができる。

まず、1938年当時の在米日本人がおかれた社会的状況について考えてみよう。日本では軍国主義が台頭し、1931年9月の満州事変に続いて1937年7月の盧溝橋事件によって日中戦争がはじまった。過去の日清・日露戦争や関東大震災のような災害時にもそうしたように、在米日本人移民の多くは競うように日本へ慰問金や慰問袋を送り、日本への経済的・物質的支援を行った。日系アメリカ移民史研究者のユウジ・イチオカや東栄一郎はこれを日本人移民一世のナショナリズムの発露ととらえている<sup>4</sup>。サンフランシスコ、サクラメント、ロサンゼルス、シアトルといった日系人が集中する西海岸地域だけでなく、日系人が少ないユタ州でも日本人会などを中心に組織的に物資や慰問金が集められ、その支援の内容は献金者や組織名とともに各地の邦字新聞で報じられた。兵士として前線に加わることができない在米日本人にとって、日本の対中戦争を物質的に支援することは日本国民として当然の義務であると考えら

れていた。南カリフォルニアでは一世による愛国的な募金運動が特に盛んで、日本軍の軍用機二機を購入するための資金を集めた団体もあった<sup>5</sup>。また、各地の日系団体やコミュニティ指導者は日本への支援を通じて自身の愛国主義を示し、コミュニティ内における指導的地位を確立しようとした<sup>6</sup>。こうした募金競争があまりに激化したため、ロサンゼルス領事はアメリカ社会で日本人に対する警戒心が広まることを懸念し、日本の外務省を通じて在米日本人に献金を控えるように呼びかけたほどだった。しかし、この通達すらもかえってコミュニティ指導者から批判を受けるという事態も発生した<sup>7</sup>。

岡コレクションに含まれている1938年の横浜正金銀行ロサンゼルス分店の郷里送金票の中には、こうした移民ナショナリズムに触発されたであろう愛国的な献金もみられる。しかし、すべての慰問金が横浜正金銀行を通じて送金されたわけではない。組織的に集められた、特に大規模な慰問金や物資は「慰問使」と呼ばれた一世の代表者によって直接日本や満州の前線に届けられていた<sup>8</sup>。個々の送金票をみていくと、送金者と受取人の姓が一致する送金が半数近くを占めており、姓の異なる親戚に送金した場合もあったらうから、日本の郷里に住む家族への仕送り金が大半を占めていると思われる。日本で1938年4月に国家総動員法が公布され、対中戦争への総力戦体制が強まる中で日本の家族を案じた在米日本人が多かったのではないだろうか。

## 2. 郷里送金票のデータ化

横浜正金銀行は1880年にアメリカ初の海外支店となるニューヨーク出張所を開設後、在米日本人移民の集住地である西海岸のサンフランシスコ（1886年）やシアトル（1917年）、ハワイのホノルル（1892年）に支店を開設した。ロサンゼルス分店は1900年に支店に昇格したサンフランシスコ支店の分店として1913年に開設された<sup>9</sup>。1940年にはハワイの日系人口は15万人以上であったのに対して、アメリカ本土に居住す

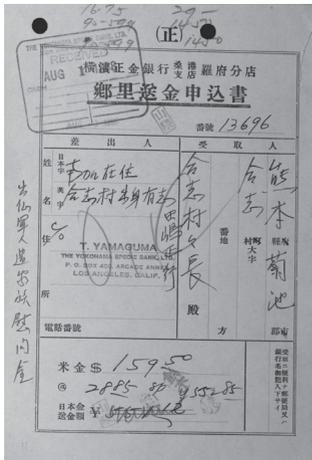


図2 南加在住合志村出身有志から合志村村長への送金票  
所蔵：YSB Box 27, Folder 1, Remittance 1938 July and August, Japanese American History Archives (以下 JAHA), JCCNC

な郵便局や銀行名を記載することになっている。送金の内容や目的に関する記入欄はないが、欄外に送金者もしくは銀行での取扱者によるメモが残っていることもある。しかし、送金票のほぼすべてが手書きによるものであることに加えて、旧字や旧地名を含む解読は容易ではなく、記入漏れや誤りも多くあるため、現在もまだデータ整理の途中である。

筆者は1938年8月1日から31日の間にロサンゼルス分店から送金された計753件すべての送金申込書のデータ化を行い、分析を行った。郷里送金申込書の原本は所蔵されているJCCNCにてデジタルカメラで撮影され、画像ファイルとして保存されている。この画像ファイル一つ一つから、手書きの文字を読んでデータ入力を行った。データ入力に際しては、2022年に筆者が成城大学で担当した「アメリカ文化史」の授業において日系移民労働者の郷里送金について紹介したほか、成城大学法学部の学生および日系研究者の協力と助言を得た。

る約12万7千人の日系人のうち、その約7割にあたる9万4千人がカリフォルニア州に居住しており、南カリフォルニアはロサンゼルス市を中心にアメリカ本土で最大の日系コミュニティであった<sup>10</sup>。戦中の強制退去・強制収容もあり、戦後になって日系人人口は東海岸や郊外地域へ分散しているものの、ロサンゼルスは現在でもアメリカ本土で最大の日系コミュニティである。

図2にみるように、郷里送金申込書に記入する項目は、送金する差出人の日英表記の氏名、住所、電話番号、送金の受取人の氏名と住所、米ドルでの送金額とその時のレートと日本円での金額、加えてわかる場合には送金の受け取りに便利

日系アメリカ史研究者のブライアン・ハヤシは、岡コレクションがで  
きる前の日米史料館で、1938年7月に横浜正金銀行ロサンゼルス分店  
から送られた送金票のデータ計915件をまとめている<sup>11</sup>。しかし、その内  
容は送金者の州別および受取先の県別の送金総額の比較にとどまってお  
り、個々の送金票の詳しい分析は含まれていない。本稿では前月分とな  
るハヤシの総合的なデータも参照しつつ、8月分の個々の送金票デー  
タの分析を行う。

### 3. 誰がどこから送金したのか

表1は、送金の差出人の住所をもとに、州または地域別に送金総額と  
送金件数をまとめたものである。これが示すように、ロサンゼルス分店  
からの送金者の居住地は、当然のことながら9割近くが南カリフォルニ  
アである。中部および北部カリフォルニアに住む日本人はロサンゼルス  
分店ではなく、サンフランシスコ支店を利用したのであろう。一方で、  
ロサンゼルスは米墨国境に近いことから、メキシコに住む日本人の送金  
もあり、近隣のアリゾナ州やテキサス州居住者の送金もある。メキシコ  
には横浜正金銀行の海外支店はなく、南米ではブエノスアイレスとリオ  
デジャネイロのみである。

表1 送金者の地域別送金総額及び送金件数  
(横浜正金銀行ロサンゼルス分店 1938年8月)

地域	送金額(\$)	割合	送金額(円)	件数
カリフォルニア州	25,191.74	93.3%	86832.57	721
メキシコ	1,322.15	4.9%	4551.32	21
アリゾナ州	197.50	0.7%	686.89	7
テキサス州	50.00	0.2%	174.36	2
その他*	237.57	0.9%	814.91	2
<b>計</b>	<b>26,998.96</b>	<b>100.0%</b>	<b>93060.05</b>	<b>753</b>

YSB Box 27, Folder 1, Remittance 1938 July and August, JAHA, JCCNC をもとに筆者作成。

\*ペンシルヴァニア州1件と不明1件

表1に示すように、1938年8月の1ヶ月間に横浜正金銀行ロサンゼルス分店から送られた郷里送金753件の総額は2万6,998ドル98セント、日本円で9万3,060円5銭である。これは当時どのくらいの価値を持っていたのだろうか。たとえば、1937年の大学卒の国家公務員の初任給は75円だったのに対し、現在2023年4月では約20万円であることから考えると、現在の物価ではこの1ヶ月の送金額だけで2億円を超える価値があることになる<sup>12</sup>。また、ハヤシが集計した1938年7月には8月よりも3割ほど多い、915件で総額3万6,150ドル15セント、日本円にして12万4,172円85銭が送金されている。この2ヶ月間の送金総額を年間に換算すると、南カリフォルニアで最も出身者の多い和歌山県の1938年度の税収入の4分の1以上を占めることになる<sup>13</sup>。当時は日本とアメリカの間に大きな経済格差があり、アメリカからの送金は日本の郷里に住む家族や親戚にとって非常に大きな価値があったのである。

個々の送金額は様々であり、900ドル(3,000円)を超える高額な送金もあれば、数ドル程度の少額もある。送金の目的は不明だが、盧溝橋事件一周年となる1938年7月7日に塩崎観三サンフランシスコ総領事が、在米日本人一世全員に一人1ドルを日本の戦死者遺族に送るよう呼びかけていたため、その影響もあった可能性が考えられる<sup>14</sup>。また、今日でも私たちが銀行でまとめて用事を済ませるのと同様に、当時も日本の家族・親戚へ何件かまとめて送金しているケースが多くみられた。例えば、サンペドロに住む國分政一は、東京、福岡、鹿児島に住む家族にあてて、それぞれ60円と15円ずつを送金している。

個人による送金ばかりでなく、団体での寄付もいくつかみられる。図2(78頁)は南カリフォルニアに居住する熊本県菊池郡合志村出身者の有志が「出征軍人遺家族慰問金」として、合志村の村長に159ドル5セント(552円85銭)を送金したものである。個人による寄付も少なくとも20件確認でき、郷里の町役場や村役場、赤十字支部、母校の同窓会、陸軍師団などへ送られている。こうした寄付は銀行を通じて地元の邦字新聞で公表されることもあったようである。上述したように、当時各地

の日系コミュニティ指導者は競って日本への寄付を集め、その寄付額を邦字新聞で喧伝していた。しかし、陸海軍恤兵部へそれぞれ100円ずつ送金した、ベニス居住で本願寺開教使の藤井龍智の送金票の余白には、「新聞紙には出さないで置いて下さい」というメモが残されており、募金競争に巻き込まれたいくなかった者もいたことを思わせる。

#### 4. どこへ誰に送金したのか

移民としてアメリカへ渡った日本人の出身県は西日本に集中しており、南カリフォルニアでは特に和歌山、広島、福岡、熊本、鹿児島出身者が多い。しかし、表2が示すように、たった1ヶ月間の郷里送金の宛先には日本のほぼすべての道府県が含まれており、在米日本人移民の地域的多様性とネットワークの広さを示している。加えて、当時日本の植民地支配下にあった朝鮮や台湾への送金もあり、在米日本人コミュニティが日本内地のみならず日本帝国における外地とも経済的につながっていたことを示している。

受取先として金額が最も大きかったのは和歌山県であり、1ヶ月間で合計72件、1万円を超える送金があった。ハヤシによる7月の集計でも和歌山県への送金は計97件で1万6,787円にのぼり、第一位である<sup>15</sup>。当時の南カリフォルニアにおける各県人会の規模と比較すると、和歌山県や第二位の広島県（70件、約8,500円）や第五位の福岡県（54件、約6,000円）は多数の県人会会員がいたことから、やはり日本の郷里への送金が多くを占めていたことが推察される<sup>16</sup>。ただし、愛知県や三重県のように出身者がさほど多くなくても個別の高額送金のケースもあるため、各県で千円以上の最高送金額のみ表に含めた。ハヤシによる7月の集計と比較しても、高額送金の個別ケースによる多少の変化はあるものの、送金額は南カリフォルニアに住む出身者の規模におおむね比例していることがわかる。

一方、この中で特殊なのは、カリフォルニアに在住する出身者が少な

表2 送金先の県別送金総額順位  
(横浜正金銀行ロサンゼルス分店 1938年8月)

順位	道府県	送金総額(\$)	割合	送金総額(円)	件数	最高送金額(円)*1	県人金員数(人)*2
1	和歌山	2,938.95	10.9%	10,218.18	72	1,736.11	600
2	広島	2,415.51	8.9%	8,474.43	70	1,221.64	650
3	東京	2,107.93	7.8%	7,282.69	92	1,038.06	38
4	静岡	1,956.19	7.2%	6,728.10	36	2,084.36	326
5	福岡	1,747.77	6.5%	6,060.29	54	1,000.00	550
6	三重	1,607.60	6.0%	5,463.25	23	3,000.00	100
7	鹿児島	1,580.98	5.9%	5,494.14	55		300
8	神奈川	1,471.05	5.4%	5,069.14	22	1,746.53	100
9	愛知	1,415.75	5.2%	4,755.73	16	2,808.19	50
10	鳥取	1,202.42	4.5%	4,171.31	31	1,047.12	120
11	高知	911.91	3.4%	3,162.11	19	1,082.02	150
12	熊本	756.91	2.8%	2,677.18	32		600
13	愛媛	677.99	2.5%	2,356.15	7	1,000.00	150
14	山口	615.99	2.3%	2,131.63	26		200
15	岡山	534.50	2.0%	1,624.18	21		250
16	山梨	531.24	2.0%	1,844.05	18		113
17	大阪	480.58	1.8%	1,674.18	18		70
18	福井	396.47	1.5%	1,335.92	5	1,000.00	120
19	その他*3	388.54	1.4%	1,353.46	11		
20	福島	344.31	1.3%	1,197.59	19		160
21	沖縄	341.42	1.3%	1,009.06	10		
22	香川	264.37	1.0%	919.56	2		80
23	滋賀	258.76	1.0%	900.02	10		117
24	富山	224.43	0.8%	801.50	3		
25	兵庫	210.83	0.8%	733.27	11		
26	宮城	150.99	0.6%	524.34	5		50
27	新潟	150.00	0.6%	521.73	1		
28	群馬	139.37	0.5%	485.54	4		10
29	島根	136.57	0.5%	477.01	7		54
30	北海道	131.62	0.5%	458.22	3		
31	奈良	125.83	0.5%	438.43	6		
32	埼玉	113.22	0.4%	392.33	4		
33	京都	88.35	0.3%	307.47	4		
34	長野	84.37	0.3%	292.74	4		70
35	茨城	80.00	0.3%	278.62	2		10
36	長崎	60.00	0.2%	208.47	4		35
37	岩手	58.10	0.2%	201.97	7		
38	青森	50.00	0.2%	173.27	2		
39	栃木	45.00	0.2%	156.82	2		
40	山形	39.20	0.1%	136.33	1		
41	秋田	30.00	0.1%	104.34	1		
42	石川	26.03	0.1%	90.45	2		

43	徳島	25.23	0.1%	87.42	2		
44	大分	25.08	0.1%	87.44	2		
45	千葉	22.23	0.1%	76.99	2		50
46	岐阜	19.37	0.1%	67.36	2		20
47	宮崎	16.00	0.1%	55.69	3		
48	佐賀	0.00	0.0%	0.00	0		
	計	26,998.96	100.0%	93,060.10	753		

YSB Box 27, Folder 1, Remittance 1938 July and August, JAHA, JCCNC をもとに筆者作成。  
 順位はドルによる送金総額。送金時の為替レートが異なるため、円による順位とは必ずしも一致しない。  
 \*1 日本円で千円以上の高額送金のみ  
 \*2 1934 年末の南カリフォルニアにおける各県人会員数（出典：南加日系人商業会議所編『南加州日本人七十年史：日米修好百年祭記念』南加日系人商業会議所，1960 年，425-26 頁。）  
 \*3 朝鮮、台湾などの外地

いにもかわらず、全道府県の中で 92 件と送金件数が最も多く、受取総額約 7,000 円で第三位の東京（当時は東京府）である。東京への送金票を個別にみていくと、他県のような家族や親戚への送金以外に、企業や団体への送金が少なくとも 38 件確認できる。その中には、すでに述べた軍への慰問金のほか、主婦之友社などの雑誌出版社、政教社といった政治団体、そのほか宗教団体、生命保険会社、印刷会社などへの送金がある。中でも、在米日本人も愛読していた女性向け雑誌『主婦之友』を刊行していた主婦之友社へは 12 件、日本で 100 万部を超える人気のあった大衆雑誌『キング』の大日本雄辯會講談社（現在の講談社）へは 6 件の少額送金があることから、雑誌の購読料支払いと思われる。図 3 の送金票では、ロングビーチ在住の女性が東京神田の主婦之友社に 20 円を送金している。日本でも人気の高い雑誌をロサンゼルスやメキシコに住む日本人が当時も取り寄せて愛読していたことが、送金記録からうかがえる。

横浜正金銀行ロサンゼルス分店から郷里へ送金したのは日本人だけではな

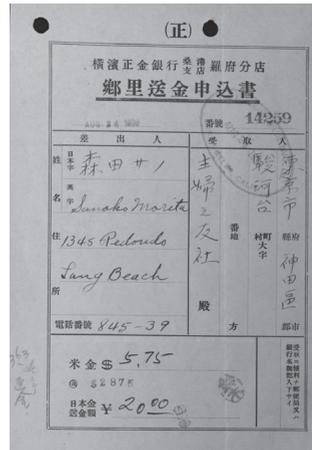


図 3 主婦之友社への送金票  
 所蔵：JAHA, JCCNC

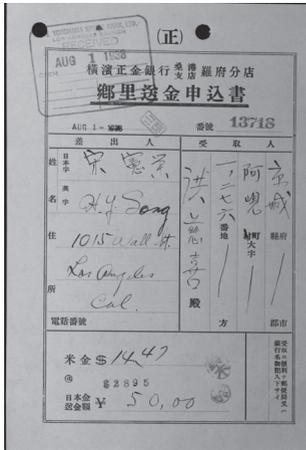


図4 ロサンゼルスから京城への送金票  
所蔵：JAHA, JCCNC

い。朝鮮あての送金8件のうち7件の送金者の姓は、金／Kim、李／Lee、宋／Sung、朴／Parkであることから、ロサンゼルスに居住するコリア系の人々が日本の外国為替銀行を利用して、母国へ送金していたことがわかる（図4）。朝鮮と台湾には日本政府が設立した植民地銀行としてそれぞれ朝鮮銀行と台湾銀行があり、横浜正金銀行の支店はなかった。戦前に朝鮮半島からアメリカへ移住したコリア系移民の数はさほど多くないが、日本帝国の支配下にあった母国に住む家族や親戚への送金ではないだろうか。ロサンゼルス在住の李在敬は高麗人參の産地

として知られる、朝鮮の開城府（現在の北朝鮮南部にある開城特別市）の高麗人參産業社に200円を送金しており、日本帝国の植民地としての朝鮮と在米コリア系間の商業的取引があったとも考えられる。また、それ以外の在米日本人からは朝鮮、台湾、上海租界への送金記録がある。いずれも差出人と受取人の姓が一致しないため家族間の仕送りかどうかは不明だが、セトラー・コロニアリズムの観点から日本帝国の勢力圏内外の日本人入植地／在外邦人コミュニティの関係を考える上で興味深い。

## 5. 日本滞在中の二世への送金

郷里送金の大半は同姓であることから家族・親族間の仕送りと思われるが、日本で送金を受け取るのは郷里にのこされた家族・親戚ばかりではなく、アメリカ生まれの二世であったケースもある。東によると、1930年代半ば、日本の高等学校や大学で教育を受けるために滞日してい

た二世の留学生が東京や大阪といった都市を中心に4千名ほどいたという。1930年代初期、米ドルに対する日本円の価値が暴落したため、日本の大学に通うのならば、生活費を含めてもかかる費用はアメリカの大学の半分ほどになり、経済的な理由から一世の親世代は多くの二世を日本留学に送り出した<sup>17</sup>。こうした事例を送金票の中に見つけることができる。図5の送金票に見るように、南カリフォルニアのガーデナ市に住む泉田キクヨは、国立市にある東京商科大学（現在の一橋大学）の住所あてに二世の息子、泉田勉に75ドル（約260円）という現在の

価格で70万円近い大金を送っている。泉田勉はロサンゼルス日本語学校、コンプトン学園で日本語を学んだ二世で、1934年に横浜の関東学院高等商業部に留学し、優秀な成績で卒業後、貿易会社への就職を断り、東京商科大学に入学した秀才だったという<sup>18</sup>。大学卒業後は日本郵船に就職し、戦前は太平洋航路の豪華客船として知られた浅間丸の事務員となった<sup>19</sup>。このほかにも青山学院高等部寄宿舎に住む息子への送金もあるなど、1930年代に東京の高等教育機関に多くの二世が留学し、アメリカに住む両親が本人ないし下宿先の親戚などへ生活費や学費を仕送りしていた様子がうかがえる。

カリフォルニアに住む一世の両親から日本に滞在する二世の子どもたちへの仕送りの宛先として、下宿先となる身元引受人の氏名が記載されていることも多々ある。ロサンゼルスでホテル業を営む麻野为一が、日本に滞在中の息子、幹夫への送金の宛先としたのは郷里の長野ではなく、図6の送金票にあるように、当時衆議院議員に選出されたばかりの東京の三木武夫宅であった<sup>20</sup>。徳島県出身の三木は、1929年のアメリカ遊説

(正)

横浜正金銀行 東京 麹町区本町二丁目 本店 豊島区 豊島 支店 豊島区 豊島 支店 豊島区 豊島 支店

AUG 3 郷里送金申込書

13873

送 出 人		受 取 人	
姓	泉田キクヨ	姓	泉田 東
名	Mrs. K. Ikumita	名	東 亨
住	P.O. Box 103-C	住	東京市 豊島区 豊島
所	Gardena Cal.	所	東京市 豊島区 豊島
電話番號		電話番號	

米金 \$ 75.00  
 @ \$ 287.5  
 日本会 送金額 ¥ 260.86

図5 東京商科大学で学ぶ二世あての送金票  
 所蔵：JAHA, JCCNC

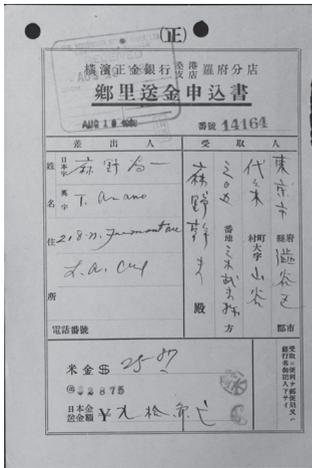


図6 代々木の三木武夫宅あての送金票  
所蔵：JAHA, JCCCNC

旅行と 1932 年から 1936 年までの留学時代に、在米日本人コミュニティで新聞記者や教師をしており、ロサンゼルスの日系コミュニティとは深い縁があった<sup>21</sup>。麻野と三木の交流については今のところ不明だが、日本に帰国して代議士となってからも、三木はしばしば日本に滞在中の日系人の子弟を自宅に居候させていたことから、麻野幹夫もその一人であったと考えられる<sup>22</sup>。日米開戦がせまる中、三木は知米派として対米戦争の回避を訴えていた。三木は戦中・戦後を通じて 1988 年に 81 歳で他界するまで 51 年間に渡って国会議員をつとめ、1974 年から

76 年には内閣総理大臣となった。戦前にロサンゼルスから代々木の三木宅にあてられた一通の送金票から、日本の大物政治家と在米日本人コミュニティの縁が浮かび上がる。

## 6. 今後の研究にむけて

本稿で示した 1938 年 8 月における横浜正金銀行ロサンゼルス分店からの郷里送金票の分析は、まだデータ解読および整理の途中ではあるが、753 件の送金票は当時の在米日本人コミュニティをとりまくトランスローカルなネットワークの一端を垣間見せてくれる。当時の邦字新聞や年鑑など、ほかの資料も参照することによって、個別の送金票は日米開戦が近づくなかでの在米日本人社会のみならず、日本との社会的、経済的、政治的、文化的つながりを解明するための大きな史料価値をもっている。

最後に、現在の日系アメリカ人コミュニティにとって、JCCCNC によ

る岡コレクションのデジタル・アーカイブ・プロジェクトがどのような意味を持つのかを今一度ふり返っておきたい。日米国家のはざまに立たされた当時の在米日本人・日系アメリカ人は、日米開戦を契機に強制退去・強制収容を経験し、日本との様々な結びつきを断ち切らざるを得なかった。FBIが接収したことによって、逆に現在まで保存されることになった岡コレクションの史料は、現代の日系コミュニティが失われた日本とのつながりを再び取り戻すための手がかりともいえるだろう。本稿で取り上げた送金票のデータは、オンラインで誰もがアクセスできるデジタル・ストーリーとして英語で公開する予定である。日本語を読めない現代の日系アメリカ人世代が、送金という極めて私的な経済的営みを通じて、祖先の郷里との結びつきを発見することができれば幸いであろう。

本稿は、成城大学特別研究助成「サンフランシスコの岡省三コレクションの発掘とコミュニティ・アーカイブについての研究」(2022-2023年度)の研究成果である。

## 謝辞

700枚以上におよぶ日英手書きの送金票を解読し、データ化するという厄介で地道な作業は多くの人々の協力なしではありえなかった。いまだ整理中である膨大な岡コレクションの史料の中から、送金票のデータ化について筆者に提案してくれたのはスタンフォード大学フーヴァー研究所ジャパニーズ・ディアスポラ・イニシアチブのキュレーター上田薫氏である。岡コレクションのデジタル・アーカイブ・プロジェクトのまとめ役である上田氏には、データ化の準備段階からマッピングにいたるまで多くの助言をいただいた。また、ミネソタ大学博士課程在籍中の吉田晋也氏にはデータの入力や整理から、分析にいたるまで様々なご協力をいただいた。データ入力については、成城大学非常勤講師の庭山雄吉

氏、埼玉大学非常勤講師の竹田安裕子氏、成城大学法学部生の齋藤千裕さん、渡邊和暉さん、齋藤大輔さんにご協力を得た。ご協力いただいたみなさまに心より深く感謝申し上げます。

#### 注

- 1 日米史料館の岡コレクションとそのデジタル・アーカイブ・プロジェクトについての詳細は、拙稿「戦前の在米日本人移民コミュニティにおける横浜正金銀行の役割とそのアーカイブ・プロジェクト」『教養論集』31号(2023年), 65-74を参照されたい。岡コレクションは、サンフランシスコ日本町の非営利団体、北加日本文化コミュニティセンター (Japanese Cultural and Community Center of Northern California、以下 JCCNC) に所蔵されている。
- 2 Japantown Atlas では1940年のリトル東京中心部にあった商業施設や団体事務所を含む詳細な地図を見ることができる。Japantown Atlas - Los Angeles - The Heart of Little Tokyo, <http://japantownatlas.com/map-littletokyo3.html>, 2024年1月12日閲覧。
- 3 邦字新聞デジタル・コレクションは以下のウェブサイトから閲覧でき、OCRによるテキスト検索ができる。https://hojishinbun.hoover.org/?l=ja 2024年1月12日閲覧。
- 4 ユウジ・イチオカ「日本人移民のナショナリズム―一世と日中戦争1937-1941」『抑留まで：戦間期の在米日系人』（ゴードン・チャン、東栄一郎編、関元訳）彩流社、2013年、171-188頁；東栄一郎『日系アメリカ移民 二つの帝国のはざま：忘れられた記憶1868-1945』（飯野正子監訳）第7章、明石書店、2014年。
- 5 東、290-91.
- 6 東、288-94.
- 7 イチオカ、174-75.
- 8 イチオカ、182.
- 9 東京銀行編『横浜正金銀行全史 第6巻』東京銀行、1984年。
- 10 “Japanese American Population,” in *Encyclopedia of Japanese American History: An A-to-Z Reference from 1868 to the Present, Updated Edition*, eds. Brian Niiya and Japanese American National Museum (New York: Facts on File, 2001), xvii-xviii.
- 11 Brian Masaru Hayashi, *Democratizing the Enemy: The Japanese American Internment* (Princeton: Princeton University Press, 2004), 59-63.
- 12 週刊朝日編『値段史年表：明治・大正・昭和』朝日新聞社、1988年、67頁。
- 13 一橋大学経済研究所統計係編『府県別歳入水準の推移：昭和1～48年』一橋大学経済研究所統計係、1977年、No. 16.
- 14 イチオカ、174.
- 15 Hayashi, 62.
- 16 南加日系人商業会議所編『南加州日本人七十年史：日米修好百年祭記念』南加日系人商業会議所、1960年、425-26.
- 17 東、241-42.

- 18 『加州毎日』 1937年4月30日, HSDC.
- 19 『羅府新報』 1940年6月23日, HSDC.
- 20 『加州毎日』 1935年6月10日, HSDC.
- 21 鈴木秀幸「三木武夫の修学時代」『大学史紀要 第15号 三木武夫研究II』明治大学大学史料委員会, 2011年, 138-175. ロサンゼルスを代表する邦字新聞『羅府新報』が発行する『羅府年鑑』には、日本の「米國関係団体並に個人住所」の中に代々木の三木宅の住所がある。羅府新報社編『羅府年鑑』羅府：羅府新報社, 1938年, 556 (電子復刻版, 奥泉栄三郎監修『初期在北米日本人の記録』第4期北米編, 115-3, 東京：文政書院, 2014年)
- 22 「三木睦子氏インタビュー (抄) 上」『大学史紀要 第14号 三木武夫研究I』明治大学大学史料委員会, 2010年, 179, 181.



訂正一覧

79 ページ 表1 表中の下線部が訂正部分

表1 送金者の地域別送金総額及び送金件数  
(横浜正金銀行ロサンゼルス分店1938年8月)

地域	送金額(\$)	割合	送金額(円)	件数
カリフォルニア州	<u>25,177.79</u>	93.3%	<u>8,7159.67</u>	721
メキシコ	1,322.15	4.9%	<u>4,552.32</u>	21
アリゾナ州	197.50	0.7%	686.89	7
テキサス州	50.00	0.2%	174.36	2
その他*	237.57	0.9%	814.91	2
計	<u>26,985.01</u>	100.0%	<u>93,388.15</u>	753

80 ページ 2行目

(誤) 2万6,998 ドル98 セント → (正) 2万6,985ドル1セント

80 ページ 3行目

(誤) 9万3,060 円5 銭 → (正) 9万3,388 円15 銭

81 ページ 19行目

(誤) 広島県 (70 件、約8,500 円) → (正) 広島県 (70 件、約8,400 円)

表2 送金先の県別送金総額順位  
(横浜正金銀行ロサンゼルス分店 1938年8月)

順位	道府県	送金総額(\$)	割合	送金総額(円)	件数	最高送金額(円)*1	県人会員数(人)*2
1	和歌山	2,938.95	10.9%	10,218.18	72	1,736.11	600
2	広島	2,415.51	<u>9.0%</u>	<u>8,378.93</u>	70	1,221.64	650
3	東京	<u>2,093.98</u>	7.8%	7,282.69	92	1,038.06	38
4	静岡	1,956.19	7.2%	6,728.10	36	2,084.36	326
5	福岡	1,747.77	6.5%	6,060.29	54	1,000.00	550
6	三重	1,607.60	6.0%	5,463.25	23	3,000.00	100
7	鹿児島	1,580.98	5.9%	<u>5,494.10</u>	55		300
8	神奈川	1,471.05	5.4%	5,069.14	22	1,746.53	100
9	愛知	1,415.75	5.2%	4,755.73	16	2,808.19	50
10	鳥取	1,202.42	4.5%	4,171.31	31	1,047.12	120
11	高知	911.91	3.4%	3,162.11	19	1,082.02	150
12	熊本	756.91	2.8%	2,677.18	32		600
13	愛媛	677.99	2.5%	2,356.15	7	1,000.00	150
14	山口	615.99	2.3%	<u>2,141.63</u>	26		200
15	岡山	534.50	2.0%	<u>1,858.95</u>	21		250
16	山梨	531.24	2.0%	1,844.05	18		113
17	大阪	480.58	1.8%	1,674.18	18		70
18	福井	396.47	1.5%	1,335.92	5	1,000.00	120
19	その他*3	388.54	1.4%	1,353.46	11		
20	福島	344.31	1.3%	<u>1,187.88</u>	19		160
21	沖縄	341.42	1.3%	1,009.06	10		
22	香川	264.37	1.0%	919.56	2		80
23	滋賀	258.76	1.0%	900.02	10		117
24	富山	224.43	0.8%	801.50	3		
25	兵庫	210.83	0.8%	733.27	11		
26	宮城	150.99	0.6%	524.34	5		50
27	新潟	150.00	0.6%	521.73	1		
28	群馬	139.37	0.5%	485.54	4		10
29	島根	136.57	0.5%	477.01	7		54
30	北海道	131.62	0.5%	458.22	3		
31	奈良	125.83	0.5%	438.43	6		
32	埼玉	113.22	0.4%	392.33	4		
33	京都	88.35	0.3%	307.47	4		
34	長野	84.37	0.3%	292.74	4		70
35	茨城	80.00	0.3%	278.62	2		10
36	長崎	60.00	0.2%	208.47	4		35
37	岩手	58.10	0.2%	201.97	7		
38	青森	50.00	0.2%	173.27	2		
39	栃木	45.00	0.2%	156.82	2		
40	山形	39.20	0.1%	136.33	1		
41	秋田	30.00	0.1%	104.34	1		
42	石川	26.03	0.1%	90.45	2		
43	徳島	25.23	0.1%	87.42	2		
44	大分	25.08	0.1%	87.44	2		
45	千葉	22.23	0.1%	76.99	2		50
46	岐阜	19.37	0.1%	67.36	2		20
47	宮崎	16.00	0.1%	55.69	3		
48	佐賀	0.00	0.0%	0.00	0		
	計	<u>26,985.01</u>	100.0%	<u>93,388.15</u>	753		